塩崎牧場

徹底した低投入型の放牧による高い所得と豊かな生活の実現

経営概要

所在地	中川郡美深町
家族構成	本人、妻、子供３人
経営面積	80ha（放牧地 20ha、１番草収穫後兼用地 40ha、採草地 20ha）
飼養頭数	45 頭（経産牛 30 頭、育成牛 15 頭）
飼養形態	スタンチョン牛舎（54 床）
生産乳量（出荷乳量）	133t/年
１頭当たり平均年間乳量	4,500kg
放牧類型	中牧区、昼夜放牧
放牧期間	５月中旬～11 月上旬
圃場植生	チモシー、オーチャードグラス、ケンタッキーブルーグラス

新規就農と放牧への憧れ

塩崎牧場が放牧に取り組むきっかけとなったのは、経営主である智史氏が道外出身で、高校時代に北海道酪農への憧れを抱き、大学時代に「放牧ができるのであれば酪農をやりたい」と思ったことだった。

輸入穀物をできるだけ使わずに草地から牛乳を生産でき、生活を楽しむことができるのが放牧の魅力と語る。

平成 18 年に農場リース事業を活用して新規就農。輸入飼料に頼らない経営を実践するため、就農３年目に化学肥料の施用をやめ、平成 26 年には配合飼料の給与もなくした。遺伝子組み換え作物も使用せず、草地には堆肥と尿・よう燐をローテーションで散布し、飼料自給率向上に取り組んでいる。

放牧に適した牛群づくりへのこだわり

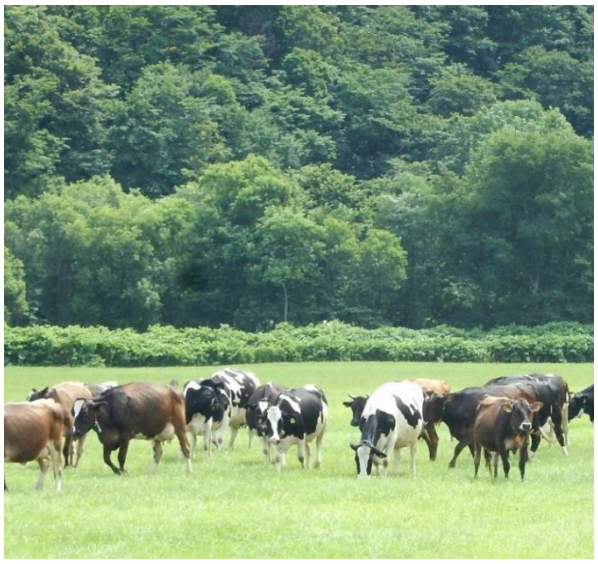
採草地からは冬場に給与するための１番草乾草のみを収穫している。放牧をしている夏季はエネルギー補給のためにビートパルプを 1.5kg/日給与しているが、舎飼い期は乾草のみを給与している。以前、追播をおこなったことがあったが現在は実施しておらず、草地から収穫できる収量に合わせた頭数規模にしている。

智史氏自身が自ら精液を選び、人工授精をおこない、放牧に適した牛群づくりに取り組んでおり、経産牛 30 頭のうちホルスタイン×ブラウンスイス、又はジャージーの F2 を 15 頭、ホルスタイン×ニュージーランド産ホルスタインの F3 を 15 頭という構成にしている。ブラウンスイスは体型が

大きいので、最近はニュージーランド産ホルスタインの精液を選択しているとのこと。結果として牧場の飼養形態に合った牛が残り、放牧に適合した牛群となってきている。

育成牛は育成舎を設け、夏は草地と自由に行き来できるようにし、冬は成牛舎に繋留するという飼養形態をとっている。

塩崎牧場の圃場図



放牧風景

地域や社会への貢献

智史氏は、枝幸町の新規就農者である石田氏主催の『もっと北の国から楽農交流会』の中心メンバーとなっている。この交流会には放牧酪農を志向する酪農家夫婦約 10 組が参加しており、夏は２ヶ月に１回、冬は１回参集して意見交換を行っている。

また、農業体験と交流の NGO である WWOOF（World Wide Opportunities on Organic Farms）にホストとして登録しており、食事・宿泊場所を提供し、海外を含む旅行者を受け入れて農作業体験等を実施している。

自身の放牧酪農経営の傍ら、地域観光や新規就農支援に貢献している。

与えられた環境でマイペースな酪農を

放牧酪農は気候等の条件で毎年環境が異なるので、狙った結果にならない点に難しさを感じているが、逆に言えば、その変化に合わせて営農できることが面白いと感じている。難しいことは先輩の新規就農者に相談しながら解決しており、最近、自分の思いどおりにやれるようになってきたと感じるという。

今後は草地の地力を上げて草地面積を有効利用し、ビートパルプ併給とリン酸施用をやめることを目標としている。決まった飼い方を求めずに、ありのままを受け入れた酪農経営をおこなっており、現状で十分暮らしていけると感じている。近隣の離農予定地への新規就農を支援し、将来的には馬を飼うなど生活を楽しみたいと語っていた。

取材日：平成 29 年８月１日

連絡先：上川農業改良普及センター上川北部支所　　電話：01656-2-1169